

文部科学省大学院教育改革支援プログラム
国際産学リンクージプログラム

東京医科歯科大学大学院・生命情報科学教育部
海外インターンシップ2008年度報告会
報告書

日時：2009年5月11日（金）13:30-17:00

場所：東京医科歯科大学・特別講堂

対象：大学院生、教員、一般

■概要

文部科学省大学院教育改革支援プログラム「東京医科歯科大学・生命情報科学教育部・国際産学リネージュプログラム」では、プログラムの一環として大学院生の国際インターンシップを実施している。大学院生に国際インターンシップの場を提供することで、国際産業界の現場で戦略的思考力と自己表現力を鍛錬する機会を在学中に与え、大学院生の国際キャリアパス形成を大学院として組織的に支援することを目的としている。具体的な内容としては、学生が国際企業へのインターンシップを自ら企画・参加することで、アカデミアや国際産業界で活躍するための国際ネットワーク作りや、国際的に活躍するためのキャリアデザインの基礎を構築する。

■インターンシップ報告会の目的

本成果報告会の目的は以下の3点である。

- (1) インターンシップを実施した大学院生に発表の場を提供すること。発表することによりインターンシップの成果を確実なものにすると同時に、プレゼンテーションのトレーニングの場を学生に提供する。
- (2) 本報告会を通して、今後本プログラムに参加を検討している学生に、インターンシップの経験を共有する場を設けると同時に、国際社会で活躍するためのモチベーションを付与すること。
- (3) 報告会にあわせて国際産業界活躍されているビジネスパーソンを招待し、講演ならびに発表者へ各種アドバイスを頂くこと。

なお本成果報告会は、大学院教育としても組み込んでおり(国際産学リネージュ特論)、教育活動の一環として取り組んでいる。

実施内容

第一部 講演

本プログラムの実施担当者である竹本特任教授より本プログラムの紹介を行った後に、第一部として国際企業においていくつもの国際大型プロジェクトを推進されてきたグラクソスミスクライン社の増子^{ましことしひさ}寿久氏に「逆境からチャンスを生み出す人間力」という演題で講演をして頂いた。増子氏は、一見魅力のない仕事も考え次第ですばらしい仕事に変えていくことができることを、自らの体験をもとにお話しされた。目の前にある仕事を大切にすることで、チャンスを生み出

す考え方を大学院生にご教授頂いた。

本講演の内容は、今回参加できなかった大学院生や他大学の学生ならびに教員、本プログラムに興味をお持ちの一般の皆様を対象に e-learning により配信する予定である。

第二部 インターンシップ報告会

2名の博士課程の大学院生が、国際インターンシップの成果報告を行った。最初の演者飯島久美子は、「Positive Control 世界は世界を変える」というタイトルで、今回のインターンシップを通して世界スケールを自ら獲得したこと、またその結果として自らの世界観が大きく変わったこと、将来の研究者としての方向性を確実にしたことを報告した(詳細は本人の報告書を参照)。飯島久美子の訪問先は以下のとおりである。

USA

Los Angeles Loyola Marymount University

Seattle Combimatrix

New York Rockefeller University Memorial Sloan-Kettering Cancer Center

Cambridge European Bioinformatics Institute

UK

Glasgow University of Glasgow

Dundee University of Dundee

Dundee CXR

France

Lyon Ecole Normale Superieure

Denmark

Copenhagen Technical University of Denmark

Germany

Heidelberg Apogenix

続いて鈴木啓子は、本人自身が特に強く興味を持つ対象「Generic Skills 教育」をテーマとして取り上げ、将来のキャリア選択を検討した結果を「海外インターンシップを通じてこれからのキャリアを考える」というタイトルで報告した(詳細は本人の報告書を参照)。鈴木啓子の訪問先は、以下のとおりである。

USA

Cambridge Harvard University

Philadelphia フィラデルフィア日米協会

Philadelphia The University City Science Center
 Philadelphia 惠泉特許事務所
UK
 Dundee University of Dundee
Denmark
 Copenhagen CPH Design

両者の報告の後、ゲスト講演者の増子氏から「大学院でこのような素晴らしい取組をされているとは知らなかった。素晴らしい大学院生が育成されていることを知り、大学院生に対する認識が変わった。」とのご意見を含め、各種のアドバイスを頂いた。

最後に、田中博教育部長よりゲスト講演者への謝辞と今回の成果に対する全体的な評価ならびに各種のアドバイスを頂いた。本報告会に関しては、今回参加できなかった大学院生や他大学の学生ならびに教員、本プログラムに興味をお持ちの一般の皆様を対象にe-learningにより配信する予定である。

今回のインターンシップならびに本報告会の成果

今回のインターンシップの成果としては、本インターンシップを通して2名の大学院生が大きく成長したことがあげられる。インターンシップ実施前は、各種の不安のためか両名とも自信がなさそうに見受けられたが、帰国後は自信に満ちた姿で堂々と発表を行い、国際社会で活躍するための各種のヒントの習得と明確な方向付けができたようであった。もう一つの大きな成果としては、本報告会を通して多くの学生へ国際社会への興味を喚起できた点である。国際ビジネスの世界で活躍されているゲスト講演者の講演ならびに各種のアドバイスと、インターンシップを通して大きく成長した2名の大学院生の経験を大学院生が共有することによって、多くの大学院生が国際社会を身近に感じ、国際社会へ一歩踏み出すための大きな動機付けとなった。

今後の事業への反映

反省点としては、1訪問施設において、訪問学生と訪問先との間でスケジュールリング上の誤解が生じた。今後は、このような誤解が発生しないように、アポイントメントの取り方に関しても事前に十分指導したい。また本報告会への参加者に関しては、企業からの参加がなかったため、次回は企業の人事担当者を招待することで、広く産業界においても本活動と成果を紹

介したい。

参加者について

大学院生約20名
 教員 3名

◆アンケート結果

(1) 印象に残った内容・学んだ内容

<講演>

- ・「ピンチはチャンス」を実感できた。
- ・他人に対する接し方、先入観を捨てるということ。
- ・物事は考え方しだい。
- ・見方をかえるとプラスにできる。
- ・自分の考え方、物事の見方を変えることで、今思っている固定概念が変わる・視野が広がること。

<講演・発表会>

- ・全体的に話が面白かった。

(2) 自分が今後改善したいところ

<講演>

- ・今回学んだ他人への接し方を実践してみたい。
- ・現在自分が行っている研究を、楽しみながら取り組みたい。

<講演・発表会>

- ・ポジティブな考え方、広い視野を持ちたいと思った。

期待度

	重要	どちらかという と重要	どちらでもない	どちらかという と重視していない	重視して いない
わかりやすさ	6	0	0	0	0
おもしろさ	4	2	0	0	0
新しさ	4	2	0	0	0
将来への参考	6	0	0	0	0

満足度

	満足	どちらか という満足	どちらでも ない	どちらか という不満	不満
わかりやすさ	6	0	0	0	0
おもしろさ	5	1	0	0	0
新しさ	5	1	0	0	0
将来への参考	6	0	0	0	0

(有効回答 6)

(文責) 東京医科歯科大学・疾患生命科学研究所

竹本佳弘